

## 新教科「流通・サービス」を実施する 特別支援学校（知的障害）の取り組み状況

－ 「流通・サービス」科の分野、学習活動、指導計画、現場実習、企業や地域等との連携 －

The Efforts of Special Support Schools (Schools for Intellectually Disabled Students)  
to Implement a New Subject “Circulation / Service”

－ Courses, Learning Activities, Planning, on-site Training and Cooperation  
with Companies and Communities of a Subject －

渡 辺 明 広

Akihiro WATANABE

（平成19年10月1日受理）

### 要 旨

現行の盲学校、聾学校及び養護学校高等部学習指導要領において、知的障害者を教育する養護学校では、専門教育に関する教科（選択教科）として「流通・サービス」が新設された。実施から5年目を迎え、軽度の知的障害のある生徒を対象に、職業教育を重視する全国の高等養護学校、および職業学科や職業コースを設置している養護学校（高等部）について、教科「流通・サービス」の分野、学習活動、現場実習、企業や地域等との連携の状況等についての調査を行った。本稿では、教科「流通・サービス」を積極的に実施している、特色ある6つの学校の取り組みの状況を紹介するとともに、今後の課題を検討した。

### はじめに

（進路動向と教科「流通・サービス」の新設）

近年の産業構造の変化等により、特別支援学校（知的障害養護学校）高等部＜本科＞卒業生の第3次産業である流通業やサービス業への就職者（事務、販売、サービス職業従事者）は、全就職者の約4割を占めている（2005年卒業者、文部科学省「特別支援教育資料」）。<sup>7)</sup> このような進路動向を踏まえ、盲学校、聾学校及び養護学校高等部学習指導要領（2003年度から実施）において、知的障害者を教育する養護学校では生徒の進路希望等に即した職業教育を進め、一層の充実、発展を図る考えのもとに、専門教育に関する教科（選択教科）として、流通やサービスに関する基礎的・基本的な内容で構成される「流通・サービス」が新設された。<sup>3)</sup>

また、この学習指導要領の改定と同時に、盲学校、聾学校及び養護学校の高等部の学科を定める文部省令が改正され、専門教育を主とする学科では、商業に関する学科、産業一般に関する学科を設置できるようになったが、特に、教科「流通・サービス」は新しく示された2つの学科で適切に扱うことが求

められる教科と考えられるし、「流通・サービス」科の設置によって、今後、学科の編成が進むことが予想される。

(教科「流通・サービス」の意義)

これまでも、「流通・サービス」の内容で示された分野（商品管理、販売、清掃、事務など）のことは、専門教育に関する教科の「工業」や「農業」などの授業の中でよりよく活用されてきた。また、領域・教科を合わせた指導形態である作業学習の中で、生産から販売までの一連の活動も数多くみられた。今後は、このような取り組みをさらに進めて教科として実施する学校も現れ、教科「流通・サービス」の目標と教育内容に基づく指導計画(年間指導計画)によって、継続的に、あるいは発展的に職業教育が展開されるであろう。全国の知的障害養護学校、とりわけ、軽度の知的障害のある生徒を対象に、職業教育を中心に進める高等養護学校、職業学科や職業コースを設置する高等部において、第3次産業の就労に向けた新教科「流通・サービス」の学習活動と指導の方法についての実践的な究明が期待される。

(教科「流通・サービス」の展開状況と問題)

盲学校、聾学校及び養護学校高等部学習指導要領（平成11年3月）解説—各教科、道徳及び特別活動編—には、流通・サービス科の設置の経緯と意義、目標と内容が解説されていて、この教科の骨子と基本的方向は示されており、<sup>4)</sup>各校では、生徒の実態や地域の事情を踏まえ、独自の特色ある教育実践が進められている。

一方で、「流通・サービス」の「商品管理」や「販売」、「清掃」などの実施する分野や取り上げる学習活動について、高等養護学校等の取り組みの状況はどのようなものであろう。また、学習指導要領の解説に示された、分野の選択・選定にあたり考慮すべきこと（地域社会の環境や立地条件に即した流通業やサービス業で学校の実態<施設・設備、備品など>に沿うものである、とか、生徒の興味・関心や作業能力の育成などを考慮したものなど）は、どの程度、充足されているであろうか。さらに、「流通・サービス」にかかわって、産業現場等における実習（現場実習）の実施状況や、企業や地域等との連携の状況については、今後の「流通・サービス」の学習活動と指導方法のあり方を検討するために基本的で重要な事項であろう。

そこで、軽度の知的障害のある生徒を対象に、職業教育を重視する全国の高等部単独校（高等養護学校）、および職業学科や普通科に職業コースを設置している養護学校（高等部）の中で、教科「流通・サービス」のいずれかの分野を実施する学校について、その実施状況についての調査を行った。

## I. 目的

軽度の知的障害のある生徒を対象に、職業教育を重視する全国の高等部単独校（高等養護学校）、および職業学科や普通科に職業コースを設置している知的障害養護学校（高等部）のうち、教科「流通・サービス」を実施し、特色ある教育実践（教育課程の自主編成）を行っている学校について、「流通・サービス」科の分野、学習活動、指導計画、現場実習、企業や地域等との連携についての取り組みの状況を調査するとともに、今後の課題を検討する。

## II. 方法

### 1 対象

質問紙調査「知的障害（高等）養護学校における、『流通・サービス』の実施状況についての調査研

究」によって、教科として「流通・サービス」の分野（「商品管理」「販売」「清掃」「事務」「印刷」「喫茶サービス」「介護」など）のいずれかを実施していることが判明した13校のうち、学校訪問を行い、関係資料の閲覧と収集、担当教諭からの聞き取り、及び授業参観（実施期間：2006年2月～2007年9月）によって詳細な状況が把握できた6校についてである。

2 「知的障害（高等）養護学校における、『流通・サービス』の実施状況についての調査研究」の調査内容と方法等

(1) 調査は次の5つの内容からなる。

- ① 学科、コースの設置と教科「流通・サービス」の実施状況
- ② 「流通・サービス」の各分野別の学習活動：現在の実施状況と今後の実施予定
- ③ 「商品管理」などの分野の選択・選定にあたり考慮すべきことの充足の程度
- ④ 産業現場等における実習（現場実習）の実施状況
- ⑤ 企業や地域等との連携の状況

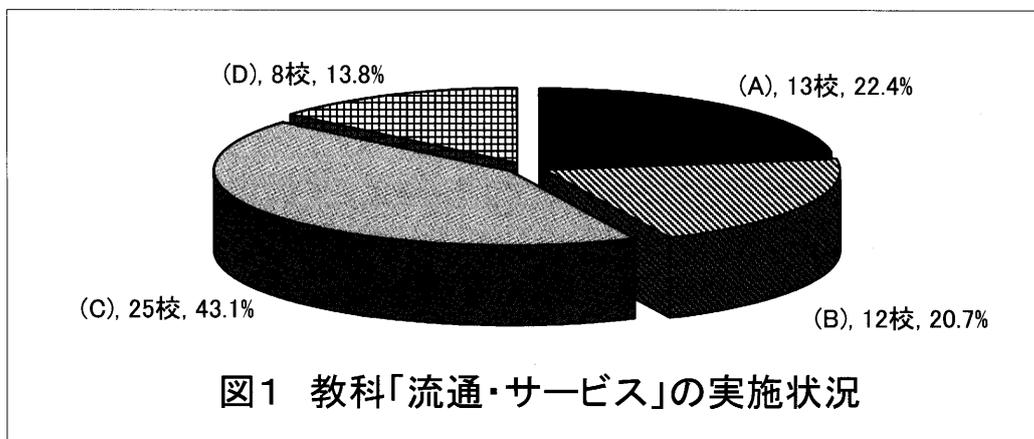
(2) 対象は、軽度の知的障害のある生徒を対象とする全国の知的障害高等養護学校、および職業学科や普通科に職業コースを設置している養護学校<高等部>（2007年度に開校した学校や職業学科、職業コースを開設した学校は除く）の合計70校（分校3校を含む）である。

(3) 郵送による自記式質問紙調査で、選択肢から1つまたは複数個を選択する方法と自由記述によって回答するものを併用した。各校には、原則として、部・コース主事（主任）、教務主任、あるいは、主に「流通・サービス」担当の教諭が部・コース全体の意見を集約する形で回答するように依頼した。

(4) 実施期間は2007年8月～9月上旬。58校から回答を得た（回収率は82.9%）。

Ⅲ. 教科「流通・サービス」の実施状況

「知的障害（高等）養護学校における、『流通・サービス』の実施状況についての調査研究」の結果、教科「流通・サービス」の実施状況は次のとおりであった（図1）。



- (A)類型 教科として、「流通・サービス」の分野のいずれかを実施している学校
- (B)類型 他の教科や作業学習の作業種目の中で、「流通・サービス」の分野のいずれかをかなり取り入れて実施している学校
- (C)類型 他の教科や作業学習の作業種目の中で、「流通・サービス」の分野のいずれかを取り入れて実施しているが、それはわずかな学校
- (D)類型 「流通・サービス」の分野はほとんど実施していない学校

- (A) 教科として、「流通・サービス」の分野（「商品管理」「販売」「清掃」「事務」「印刷」「喫茶サービス」「介護」など）のいずれかを実施している。… 13校（22.4%）
- (B) 単独の教科としては実施していないが、他の教科（「家政」「農業」「工業」など）や作業学習の作業種目の中で、「流通・サービス」の分野（「商品管理」「販売」「清掃」「事務」「印刷」「喫茶サービス」「介護」など）のいずれかをかなり取り入れて実施している。… 12校（20.7%）
- (C) 他の教科（「家政」「農業」「工業」など）や作業学習の作業種目の中で、「流通・サービス」の分野（「商品管理」「販売」「清掃」「事務」「印刷」「喫茶サービス」「介護」など）のいずれかを取り入れて実施しているが、それはわずかである。… 25校（43.1%）
- (D) 「流通・サービス」の分野はほとんど実施していない。… 8校（13.8%）

#### Ⅳ. 各校の教科「流通・サービス」の実施状況

##### 1 A校：工業、農業の科目に加え、「流通・サービス」の多種類の分野を実施

###### 1) 学校（学科・コース）の概要

高等部単独校（産業科）。学年定員は50名程度。1年次はコースに分かれない。2学年より、工芸コース（木工班、金工班）、産業コース（紙工班、縫工班）、窯業コース（窯業班、セメント班）の6つの班に分かれる。従来から履修している工業科、農業科の科目に加えて、2003年度より「流通・サービス」科の多種類の分野を加え、企業就職を目指した職業教育を展開している。挨拶の励行や、作業の安全性を高めるための復唱、呼称と報告を行うことを重視してきたが、これは、流通・サービス（第3次産業）においても、働く者の基本的な姿勢として考えられている。毎年、ほとんどの生徒が企業に就職しているが、小売・卸売・飲食店やサービス業は10人程度で、多くは製造業種に就く。

###### 2) 「商品管理」の学習活動

学習指導要領の解説で示されている、「商品管理」の学習活動例<sup>4)</sup>のうち、次の活動が実施されている。

- ・箱詰めやパレット積みなどの品物の収納に関すること
- ・台車、コンベア、フォークリフト等を使った商品の運搬方法の知識と技術に関すること
- ・商品管理に必要な伝票の記入と取扱いに関すること

「倉庫における保管に関すること」と「運送に関すること」は実施していないが、他に、ピッキング、計量（kg、g、個数単位の袋詰め）を行っている。

###### 3) 「商品管理」の分野の選択・選定にあたり考慮すべきことの充足の程度

学習指導要領の解説で示されている、分野の選択にあたり考慮すべきこと<sup>4)</sup>の充足の程度（5段階評定）は次のとおりであった。

- ・地域社会の環境や立地条件に即した流通業やサービス業で学校の実態（施設・設備、備品など）に沿うもの <評定4>
- ・生徒の興味・関心や作業能力の育成などを考慮したもの <評定4>
- ・現場実習の場所に関して長期的、継続的に見通しがもてるもの <評定4>
- ・一般社会で通用する商品の取扱いやサービス業務が行えるもの <評定4>
- ・生徒の実態に合わせて作業工程や作業の進め方の工夫がしやすいもの <評定4>

いずれの項目についても、5段階評定の4（かなり充たしている）である。全般的に考慮すべきことの充足の程度は高いといえる。

#### 4) 指導時数

教科「流通・サービス」は1年次にはない。どのコース（班）も第2学年から週2単位時間ある（週の総時間は30時間）。

#### 5) 指導計画

2年次では、つぎの分野や学習活動を行う（計70時間）。

「商品管理」（皿洗い・ふき取り・保管、食堂での食器洗浄の見学）（kg、g単位の計量、袋詰め）（包装・梱包、ダンボール組み立て）<24H>、「事務」（印刷機・シュレンダーの用途と使い方）（パソコンの基本操作）（ワープロソフトによる文書入力）（簡単なビジネス文書の作成）<16H>、「清掃」（効率のよい清掃の方法）<6H>、「計量」（ピッキング・総合的な演習）<6H>、「接客」（文化祭販売実習実践練習）<2H>、「衣類たたみ」（タオルの整理・梱包）<4H>、校内実習（タイプ別作業）<2H>、体験実習<6H>など、である。

3年次では、つぎの分野や学習活動を行う（計64時間）。

「商品管理」（袋詰め）<8H>、「伝票処理」（注文受付・伝票記入・弁当の盛り付け・配達）<8H>、「在庫管理」（流通教材の在庫確認）（教材の整理）<6H>、「事務機器」（印刷機・シュレンダーの扱い方）（パソコンの基本操作）（表計算入力<excel>）<14H>、「清掃」（効率のよい準備・清掃）（洗剤の扱い方）（ポリッシャーの扱い方）<6H>、「運搬」（重量物の運搬）（机・椅子並べ）<6H>、「接客」（挨拶・身だしなみ・職場のマナー）（電話での対応）（電話でのメモ）（文化祭販売実習実践練習）<10H>、校内実習（タイプ別作業）<2H>、現場実習<4H>

毎時間の最初に職場での挨拶の練習、身だしなみのチェックやビジネス実務マナー検定の問題から選んだものを出題し、仕事上のマナーの学習をする。

#### 6) 産業現場等における実習（現場実習）の実施状況

現場実習を希望する生徒の数に対して、「流通・サービス」の分野を主とする実習先の確保の状況（程度）は5段階評定の3「なんとかある」という状況である。

現場実習先で、生徒が実習を進める上での問題点や課題として、「実習（仕事）内容が生徒の実態と合わないことが多い」「実習（仕事）内容が多様で、生徒が対応できにくいことが多い」「そのつどの判断を求められることが多く、生徒は困難なことが多い」「生徒自身ができばえを評価しにくい」といった、指摘があった。特に「そのつどの判断を求められることが多い」について、生徒の課題は大きいと把握されている。

#### 7) 企業と地域等との連携の状況

「流通・サービス」に関連して、地域の人々や関係機関との具体的な関わり（連携の事項）は次の1項目のみである。

- ・近隣の幼稚園、学校、福祉施設、公園などで（清掃活動、介護などの）実習をしている

## 2 B校：校内に喫茶店を開店し、「喫茶サービス」を実施

### 1) 学校（学科・コース）の概要

高等部単独校。2004年度から職業学科（産業総合科）を新設し、職業に関する専門的な知識や技能の習得と職業学科の高校生としてのキャリアの育成を旨とす（学年の入学定員は30名）。生徒は入学時点で、農園芸、食品加工、情報印刷のうちから学習グループを選び、3年間を通して履修する。農園芸は「農業」（〔作物、野菜、果樹の栽培〕〔草花の栽培、花壇の管理〕〔食品製造〕）、食品加工は「家政」（〔製パン・製菓〕）、情報印刷は「工業」（〔情報処理〕〔DTP（パンフレットやチラシの作成）〕）を中心

に学習し、加えて「流通・サービス」を履修する。校内に開店した喫茶店の運営やパン販売での接客・販売を通して、販売、商品管理、事務、サービスに必要な知識や技能を習得する。また喫茶に常設するギャラリーを通して地域の人たちとの関わりを深め、ビジネスマナーやコミュニケーション能力を高める学習をしている。

## 2) 「喫茶サービス」の学習活動

次の「喫茶サービス」の学習活動のすべてが実施されており、今後も実施していきたい意向である。

- ・接客に関する態度や姿勢（もてなしの心）を身につけること
- ・接客に関する服装や言葉遣いを身につけること
- ・飲み物などの出し方の手順や振舞い方を身につけること
- ・状況に対応する判断力を持ち、必要な行動がとれること

## 3) 「喫茶サービス」の分野の選択・選定にあたり考慮すべきことの充足の程度

分野の選択にあたり考慮すべきこと<sup>4)</sup>の充足の程度（5段階評定）は次のとおりであった。

- ・地域社会の環境や立地条件に即したサービス業で学校の実態（施設・設備、備品など）に沿うもの <評定5>
- ・生徒の興味・関心や作業能力の育成などを考慮したもの <評定5>
- ・現場実習の場所に関して長期的、継続的に見通しがもてるもの <評定5>
- ・一般社会で通用するサービス業務が行えるもの <評定5>
- ・生徒の実態に合わせて作業工程や作業の進め方の工夫がしやすいもの <評定5>

すべての項目について5段階評定の5（ほとんど充たしている）である。

## 4) 指導計画

ビジネスに直結した知識・能力を身につけることを目的に、共通のプログラムと抽出の「販売士」取得プログラムを設定している。販売に必要な商品知識や販売技術などを中心に、より高度で専門的な知識を持つ人材の育成を目指した内容である。

- ・ 1年次（講義など、35時間）

常識（小売業の概念と社会・経済的役割、流通機構の概念、消費市場と消費者の行動、職場の人間関係、など）、接客マナー（服装とみだしなみ、あいさつ・言葉遣い、電話の対応、販売員としてのマナー、店内作業、接客場面、カウンターでの対応、など）

- ・ 2年次（講義など、35時間）

販売技術（顧客心理と接客販売技術、商品の包装技術、など）、販売事務管理（文書・帳簿の基礎、事務のOA化と省力化、計算事務、など）、商品知識（商品とは、商品の価値、サービス商品、ブランド、販売者に必要な情報、など）

## 5) 産業現場等における実習（現場実習）の実施状況

現場実習を希望する生徒の数に対して、「流通・サービス」の分野を主とする実習先の確保の状況（程度）は5段階評定の3「なんとかある」という段階である。

現場実習先で、生徒が実習を進める上での問題点や課題として、「実習先が少ない」「実習（仕事）内容が生徒の実態と合わないことが多い」「実習（仕事）内容が多様で、生徒が対応できにくいことが多い」「実習（仕事）内容について、生徒が、関心が持てなかったり、意欲づけが弱いことが多い」「対人関係や接客にかかわることで、生徒には困難なことが多い」「そのつどの判断を求められることが多く、生徒は困難なことが多い」「学校での学習と実習先の実習（仕事）内容や仕事の進め方に違いが大きいことが多い」「製造業に比べて、実習の様子を評価するのが難しい」「実習がそこでの就職につながら

いことが多い」の9つの項目に印があった。「流通・サービス」を行う現場実習では、多くの問題点や課題が意識されていることがうかがえる。

#### 6) 企業と地域等との連携の状況

「流通・サービス」に関連して、地域の人々や関係機関との具体的な関わり（連携の事項）は次の項目である。

- ・学校での学習活動（授業）で、一般企業（清掃会社など）のマニュアルを利用している
- ・学校での学習活動（授業）のために、企業や地域等に外部講師を依頼（招聘）している

これまで、小規模の事業所との連絡、連携は取り組まれていたが、この2、3年は、長期実習プランの構築などに関して、大企業との連携のシステムづくりに取り組んでいるところである。<sup>5)</sup>

### 3 C校（生活産業科 流通・サービスコース）：2年次以降、専属の「ビルメンテナンス」を実施

#### 1) 学校（学科・コース）の概要

2004年4月、高等部に生活産業科（学年定員は16名）を設置して4年目になる。指導の重点の1つは、専門教科を通して社会自立に必要な力を育成することであるが、1年次は専門教科「家政」と「流通・サービス」の両方を履修し、2年次以降は「流通・サービスコース」と「家政コース」のいずれかを選択する。「流通・サービスコース」の中心科目の「流通・サービス」はビルメンテナンスに関する専門的な学習を中心に行う。清掃時の態度の心得から、ポリシャーなどの業務用機械、スクイジーやダストクロスモップなどの専門的な道具を使って、プロの清掃技術を学習する。流通・サービス担当の専属教員は2名で、他に特別非常勤講師2名がいる。

#### 2) 「清掃（ビルメンテナンス作業）」の学習活動

学習指導要領の解説で示されている、次の「清掃」の学習活動例<sup>4)</sup>のすべてが実施されている。

- ・清掃用具や道具の使用と保管に関すること
- ・洗剤や薬剤の取扱いや保管に関すること
- ・清掃の手順や清掃技術の習得に関すること
- ・清掃のできばえについての基準の理解や判断に関すること
- ・廃棄物の処理に関すること

以上の他に、事務所などを清掃するときや終わったあとの挨拶や態度・心得などの学習、床材の識別や安全衛生に関することなど、幅広く行っている。さらに、ビルクリーニング技能検定試験に向けた学習を行っている。

#### 3) 「清掃（ビルメンテナンス作業）」の分野の選択・選定にあたり考慮すべきことの充足の程度

学習指導要領の解説で示されている、分野の選択にあたり考慮すべきこと<sup>4)</sup>の充足の程度（5段階評定）は次のとおりであった。

- ・地域社会の環境や立地条件に即したサービス業で学校の実態（施設・設備、備品など）に沿うもの <評定5>
- ・生徒の興味・関心や作業能力の育成などを考慮したもの <評定5>
- ・現場実習の場所に関して長期的、継続的に見通しがもてるもの <評定4>
- ・一般社会で通用するサービス業務が行えるもの <評定5>
- ・生徒の実態に合わせて作業工程や作業の進め方の工夫がしやすいもの <評定5>

4項目について、5段階評定の5（ほとんど充たしている）である。「現場実習の場所に関して長期的、継続的に見通しがもてるもの」も4（かなり充たしている）であり、全般的に考慮すべきことの充

足の程度はきわめて高いといえる。

#### 4) 指導時数

1年次は、173単位時間（他に夏季実習研修10単位時間、実習体験37単位時間）。2年次は、専門教科（作業）は週に終日が2回（月、木）と2コマ（水）の計14コマである。年間は全105回（総時間490時間）となる。3年次も同じである。

#### 5) 3年間の指導計画

第1学年の前期では、[ビルメン入門] <オリエンテーション><4H>の後、[ビル清掃の基本作業<器具編>]（道具の種類や特徴を知り、いろいろな清掃の仕方を知る。ほうきの使い方、モップの使い方、スクイージの使い方、よごれの取り方、作業の安全と衛生、洗剤の使い方 etc.）を学習する<88H>。[夏季実習研修]として、基本作業の応用（窓ガラス拭き、廊下・階段の掃除）<10H>、基本作業の検定がある。

1年次の後期には、[ビル清掃の基本作業（器具編）（機械編）]（作業場所の違いがわかり、その場の清掃の仕方を学ぶ。真空掃除機の使い方、床みがき機の使い方、玄関まわりロビーの清掃、トイレ・洗面所及び湯沸かし器の清掃法 etc.）<69H>と、[実習体験]（基本実習Ⅰ、Ⅱ）<37H>、基本作業Ⅰ、Ⅱの検定がある。

2年次の4月～6月では、1年次で学習した[ビル清掃の基本作業（器具・機械編）]の反復練習をすることで、基本作業のまとめをする<98H>。7月～3月では、[ビル清掃の基本作業（機械編）]<作業方法の違いがわかり道具を使い分け清掃する><275H>と[体験実習（現場実習）]を2回行う。

3年次は、2年次と同じである。

#### 6) 産業現場等における実習（現場実習）の実施状況

現場実習を希望する生徒の数に対して、「流通・サービス」の分野を主とする実習先の確保の状況（程度）は5段階評定の3「なんとかある」という段階であって、病院関係はあるが、ビルメンテナンス会社は少ないのが問題点である。また、ビルメンテナンスでのワックスがけなど清掃等は深夜、早朝にされることが多いなど、事業所の営業時間と生徒の実習時間が合わないことが多いことが指摘されている。

#### 7) 企業と地域等との連携の状況

以下のように、「流通・サービス」に関連して、企業や地域等と数多くの具体的な関わり（連携の事項）が実施されている。

- ・学校での学習活動（授業）で、一般企業（清掃会社など）のマニュアルを利用している
- ・学校での学習活動（授業）のために、企業や地域等に外部講師を依頼（招聘）している
- ・企業、大学、地域等から必要なボランティアの受け入れをしている
- ・近隣の幼稚園、学校、福祉施設、公園などで（清掃活動、介護などの）実習をしている
- ・就職や卒業後の就労支援のための、関係機関による地域ネットワークがある

ビルメンテナンス協会の助言を受け、特別非常勤講師（清掃会社職員、ビルクリーニング技能士）2名を置いている。年間を通じ、週24時間、教師と共同の授業を担当している。また、新たな進路指導システムをめざして、市内の企業5社、特別支援学校2校、教育委員会が定期的な研究会（年5回）をもち、協議を進めている。<sup>5)</sup>

## 4 D校：普通科に「流通・サービス」コースを設置して実施

### 1) 学校（学科・コース）の概要

2006年度開校の高等部単独校（学年定員は24名）。普通科であり、教育課程は普通教育に関する教科と専門教育に関する教科を2：1の割合で編成している。ものづくりから流通・サービスまで、働く基礎・基本の習得の後、実践的な知識・技能・態度の育成を図り、卒業後は一般企業等への就職を目指す。1年次では、専門教育に関する教科「工業」を週4単位時間履修する。2年次から、「ものづくりコース」と「流通・サービスコース」（「商品管理・販売」「清掃・福祉」）のいずれかを選択し、「流通・サービスコース」は週に「工業」（「紙工」）を4単位時間と「流通・サービス」を6時間履修する。3年次も同じ予定である。なお、「ものづくりコース」は2年次と3年次に「流通・サービス」（「商品管理・販売」）を週2単位時間履修する。

## 2) 「商品管理」の学習活動

学習指導要領の解説で示されている、「商品管理」の学習活動例<sup>4)</sup>のうち、次の活動が実施されている。

- ・箱詰めやパレット積みなどの品物の収納に関すること
- ・倉庫における保管に関すること
- ・台車、コンベア、フォークリフト等を使った商品の運搬方法の知識と技術に関すること
- ・商品管理に必要な伝票の記入と取扱いに関すること

「運送に関すること」は実施していないし、当面、実施の予定はない。

## 3) 「商品管理」の分野の選択・選定にあたり考慮すべきことの充足の程度

学習指導要領の解説で示されている、分野の選択にあたり考慮すべきこと<sup>4)</sup>の充足の程度（5段階評定）は次のとおりであった。

- ・地域社会の環境や立地条件に即した流通業やサービス業で学校の実態（施設・設備、備品など）に沿うもの <評定3>
- ・生徒の興味・関心や作業能力の育成などを考慮したもの <評定3>
- ・現場実習の場所に関して長期的、継続的に見通しがもてるもの <評定3>
- ・一般社会で通用する商品の取扱いやサービス業務が行えるもの <評定3>
- ・生徒の実態に合わせて作業工程や作業の進め方の工夫がしやすいもの <評定3>

すべての項目について5段階評定の3（ふつう）である。開校してまだ2年目の学校のため、教育実践の蓄積が必要なことと職場開拓が全県の範囲に及ぶことなど、今後の取り組みに負うところが大きい。

## 4) 指導時数

2年次の「流通・サービス」コースの教科「流通・サービス」は、「商品管理・販売」と「清掃・福祉」合わせて週6単位時間である（年間210単位時間）。3年次も同じである。

## 5) 3年間の指導計画

### 「商品管理・販売」

2年次：オリエンテーション、循環型流通作業（ピッキング1：文具他既製商品のピッキング、ピッキング2：コンセントの部品のピッキング、組み立て、棚卸し）、接客・販売（学校祭でのカフェ）、データ入力（エクセルの使用）、などである。（予定時数140単位時間）

3年次：題材は2年次に同じ。データ入力はデータベースの使用。（予定時数140単位時間）

### 「清掃・福祉」

2年次：オリエンテーション、福祉施設の仕事、教室清掃（掃き掃除、拭き掃除の作業手順、清掃道具の使用法）、校舎外清掃（ほうき・ブラシの使用、除草作業）、窓ガラス清掃（スクイジー・伸縮ポー

ルの使用法、作業手順、安全な作業)、屋外の掃き掃除(竹ぼうき・たけみの使用法、一輪車の使い方)、校舎内清掃(トイレ・蛍光灯・換気扇の清掃、ブラシ・雑巾・布の使用法、ポリッシャー・床用スクイジー・ほうき等を使っての床清掃、ワックスがけ、薬剤等の正しい使用と管理)(予定時数70単位時間)

3年次:オリエンテーション、校舎外清掃(依頼の方法、時間内での徹底した清掃、清掃場所に応じた道具の選び方・使用方法、礼状と電話の掛け方)、福祉(タオル・シーツ・枕カバー・布団カバー等の洗濯、ベッドメイク、老人とのコミュニケーション体験)、校舎内清掃(使用用具の確認、作業手順の確認、床への専門的な清掃とワックスがけ・乾燥、窓の清掃)など(予定時数70単位時間)

#### 6) 産業現場等における実習(現場実習)の実施状況

現場実習を希望する生徒の数に対して、「流通・サービス」の分野を主とする実習先の確保の状況(程度)は5段階評定の3「なんとかある」という状況である。

また、開校2年目で、実習の機会は少ないが、隣接する高校との合同文化祭の模擬カフェでの接客ぶりから、「対人関係や接客にかかわることで、生徒には困難なことが多い」「そのつどの判断を求められることが多く、生徒は困難なことが多い」「生徒自身ができればを評価しにくい」といった生徒の課題が指摘されている。

#### 7) 企業と地域等との連携の状況

以下のように、「流通・サービス」に関連して、企業や地域等と数多くの具体的な関わり(連携の事項)が実施されている。

- ・学校での学習活動(授業)で、一般企業(清掃会社など)のマニュアルを利用している
- ・地域の商工会議所と連携している
- ・いつでも(必要に応じて)、現場実習ができる実習先がいくつかある

商工会議所は学校の近くにあるが、生徒の進路指導にかかわって、相談ができる関係づくりができています。

### 5 E校:ホームヘルパー3級の取得を旨とする選択科目「ホームヘルプ実習」を実施

#### 1) 学校(学科・コース)の概要

職業教育を行う職業学科(6学科)を置く(学年定員は50人)。2003年度に行われた学校行事の「生活体験発表会」で「介護福祉の仕事ができるようになりたい」と発表した生徒の声が契機となり、また、厳しい雇用情勢が続く中で、「福祉・介護の現場」での新たな職域の開発と雇用・就労を促進するねらいから、2004年6月、訪問介護員養成研修事業者として指定を受け、放課後活動として養成研修講座を開始した。2006年度からはこの「ホームヘルプ実習」を、「家政」科の一分野として実施し、障害程度が比較的軽い学科(農業科、木工科、工業科、家庭科)の2学年以上における「選択実習」として行っている(毎年10人程度が履修)。

現時点では、ホームヘルパー3級の資格取得が必ずしも就労に結びついてはいないが、関係の教員からはこの研修を通して、生徒は他人を支援すること、相手の立場に立って考え行動すること、人と接することを学ぶことができたこと、また、生徒のコミュニケーション能力の向上に大いに期待ができると評価されている。

#### 2) 「介護」の学習活動

次の「介護」の学習活動が実施されており、今後も実施していきたい意向である。

- ・高齢者の心と体についての理解をすること
- ・受容、共感、傾聴など介護の基本的姿勢を身につけること

- ・ベッド上での体位変換、食事介助、車いすでの移動介助、ベッドメイキングの技術を身につけること
- ・高齢者と会話をする技術を身につけること

しかし、「レクリエーションの技術を身につけること」は実施していなく、当面は実施する予定はない。

### 3) 「介護」の分野の選択・選定にあたり考慮すべきことの充足の程度

学習指導要領の解説で示されている、分野の選択にあたり考慮すべきこと<sup>4)</sup>の充足の程度（5段階評定）は次のとおりである。

- ・地域社会の環境や立地条件に即したサービス業で学校の実態（施設・設備、備品など）に沿うもの <評定4>
- ・生徒の興味・関心や作業能力の育成などを考慮したもの <評定4>
- ・現場実習の場所に関して長期的、継続的に見通しがもてるもの <評定4>
- ・一般社会で通用するサービス業務が行えるもの <評定2>
- ・生徒の実態に合わせて作業工程や作業の進め方の工夫がしやすいもの <評定4>

上記の4項目については、5段階評定の4（かなり満たしている）が多いが、「一般社会で通用するサービス業務が行えるもの」は2（あまり満たしていない）の段階である。資格を生かし、介護現場で働くには、ヘルパー3級の資格取得だけでは就労に結びついていない実状がうかがえる。

### 4) 指導時数

「家庭看護・介護に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得を図り、生活に関連する職業に必要な能力と態度を育てる」を目標に、研修時間数は70時間（平成19年度予定）である。週2時間で行う。

### 5) 指導計画

厚生労働省の「訪問介護員養成カリキュラム」（3級課程）の基準に従い、1年間で講義（9教科、33時間）と演習（3教科、24時間）、実習（9時間）、任意（「実習オリエンテーション」と「研修のまとめ」で4時間）の計70時間を行う。演習（「ホームヘルプサービスの共通理解」）では、サービス提供場面のロールプレイを行い、コミュニケーション能力の向上や相手の立場になって考える体験を行う。実習は、「在宅サービスの提供現場見学」の中で行っている。老人保健施設と特別養護老人ホームの2ヶ所で3日（9時間）行う。利用者との交流、福祉機器利用体験を行っているが、見学（現場見学）程度である。

### 6) 産業現場等における実習（現場実習）の実施状況

現場実習を希望する生徒の数に対して、「流通・サービス」の分野を主とする実習先の確保の状況（程度）は5段階評定の3「なんとかある」という状況である。

現場実習先で、生徒が実習を進める上での問題点や課題として、「実習先が少ない」「実習（仕事）内容が生徒の実態と合わないことが多い」「実習（仕事）内容が多様で、生徒が対応できにくいことが多い」「対人関係や接客にかかわることで、生徒には困難なことが多い」「そのつどの判断を求められることが多く、生徒は困難なことが多い」といったことが実感されている。また、「実習先に指示をしてくれたり、仕事の仕方などを教えてくれる人がないことが多い」と職場の事情が整っていないことも指摘された。

### 7) 企業と地域等との連携の状況

「介護」に関連して、地域の人々や関係機関との具体的な関わり（連携の事項）が報告された。

- ・学校での学習活動（授業）のために、企業や地域等に外部講師（介護福祉士、看護師）を依頼（招聘）している

- ・企業、大学、地域等から必要なボランティアの受け入れをしている
- ・近隣の幼稚園、学校、福祉施設、公園などで（清掃活動、介護などの）実習をしている

現状では、ホームヘルパー3級の資格取得が就労に結びついてはいない。課題は、職場の開拓であり、関係機関、施設等との連携がより求められている。

## 6 F校：コミュニケーション能力の向上を目指した、学校設定教科「生産技術」科の設定

### 1) 学校（学科・コース）の概要

高等部単独校（1学年の定員は16名）。普通科に農芸・園芸コース、木工コース、窯業コース、紙工コース、家政・被服コースを置く。作業活動は教科の職業科で行っている。この他に、生産技術に関する幅広い職種に生きる知識や技術の習得と、意欲的で発展的・実践的な態度を育てることを目指して、2004年度から、第2学次生、第3学次生に選択（必修）の学校設定教科「生産技術」を設定し、印刷班（名刺、カレンダー等の制作・注文による販売など）、清掃・クリーニング班（校内清掃、クリーニング作業<ハンカチ、エプロン>、清掃実習<市体育館の清掃など>）、福祉・サービス班（福祉施設での実習、職業作品の販売・管理など）に分かれて履修している。この教科は、就労職種が製造業種からサービス業種に移行している実態や一つひとつの繰り返しの作業から変化に応じた作業への対応、人とのかわり、コミュニケーション能力の向上などを踏まえて行われる。

### 2) 「販売」の学習活動

学習指導要領の解説で示されている、次の「販売」の学習活動例<sup>4)</sup>のうち、すべてが実施されており、今後も実施していきたい意向である。

- ・商品の仕入れ、包装、陳列に関すること
- ・あいさつ、案内、お礼などの接遇に関すること
- ・身だしなみ、言葉遣い、姿勢や態度など接客に関すること
- ・金銭の受け取り及びカードの処理に関すること
- ・伝票類の記入や取扱いに関すること

### 3) 「販売」の分野の選択・選定にあたり考慮すべきことの充足の程度

学習指導要領の解説で示されている、分野の選択にあたり考慮すべきこと<sup>4)</sup>の充足の程度（5段階評定）は次のとおりであった。

- ・地域社会の環境や立地条件に即したサービス業で学校の実態（施設・設備、備品など）に沿うもの <評定4>
- ・生徒の興味・関心や作業能力の育成などを考慮したもの <評定3>
- ・現場実習の場所に関して長期的、継続的に見通しがもてるもの <評定3>
- ・一般社会で通用するサービス業務が行えるもの <評定3>
- ・生徒の実態に合わせて作業工程や作業の進め方の工夫がしやすいもの <評定3>

地域に産直の販売所を設置しているが、「現場実習の場所に関して長期的、継続的に見通しがもてるもの」は評定3（ふつう）であり、他の項目も3が多い。

### 4) 指導時数

2年次、3年次ともに、週時数2単位時間（時間週時数は各学年31時間）である。（教科「職業」は週12時間）

### 5) 指導計画

生産技術（印刷班）の年間指導計画

前期（12回） 1 キー入力練習（ローマ字変換）、2 パソコン検定5級の内容の学習、3 ワードプロソフトの基本操作習得（文字の入力・編集、デジカメによる撮影・写真やイラストの挿入、レイアウト枠の挿入、文書の保存・フィルダによる管理、文書の印刷）、4 インターネットの利用（情報モラルと情報セキュリティ、インターネットによる検索）

後期（14回） 1 ワードプロソフトによる掲示物の作成（自己紹介文の作成、学校行事の紹介・作成）、2 いろいろなソフトによる作成（学校行事の写真を利用したカレンダーの作成、名前シールの作成）、3 パソコン検定5級の練習問題、4 インターネットの利用、電子メールの活用  
6) 産業現場等における実習（現場実習）の実施状況

現場実習は、2年次から行い、前期2週間、後期2週間である。現場実習の実習先（業種）と職業科の作業班、学校設定教科の所属班とは関連していない。現場実習を希望する生徒の数に対して、「流通・サービス」の分野を主とする実習先の確保の状況（程度）は5段階評定の3「なんとかある」という状況である。

現場実習先で、生徒が実習を進める上での問題点や課題として、「実習先が少ない」「対人関係や接客にかかわることで、生徒には困難なことが多い」「そのつどの判断を求められることが多く、生徒は困難なことが多い」「学校での学習と実習先の実習（仕事）内容や仕事の進め方に違いが大きいことが多い」ことが挙げられている。また、「実習がそこでの就職につながらないことが多い」との指摘もあって、進路にかかわっての課題は大きい。

#### 7) 企業と地域等との連携の状況

「流通・サービス」の授業や進路に関連して、地域の人々や関係機関との具体的な関わりがあることは比較的多く、次の項目であった。

- ・学校での学習活動（授業）のために、企業や地域等に外部講師を依頼（招聘）している
- ・近隣の商業高校や工業高校などから、技術面のノウハウ（技術的知識・情報）を伝授されている
- ・近隣の幼稚園、学校、福祉施設、公園などで（清掃活動、介護などの）実習をしている
- ・いつでも（必要に応じて）、現場実習ができる実習先がいくつかある
- ・地域等の中に、学校での学習活動（授業）で製作や生産した作業作品が販売できる、常設の店がある
- ・就職や卒業後の就労支援のための、関係機関による地域ネットワークがある

地域に産直の販売所を設置している。駅前のテナントでチャリティバザーができないかも検討中である。また、現場実習や就職している卒業生の就労を支える事業主の組織（「現場実習支援の会」）があって、実習の引き受けや学校への情報提供がされている。

## V. 考察

### 1 教科「流通・サービス」を実施する学校、学科、コース

現行の盲学校、聾学校及び養護学校高等部学習指導要領から教科「流通・サービス」が設けられて5年目になるが、単独の教科として「流通・サービス」を実施する学校は現況では多くはないことが判明した。その理由を吟味することは別の稿としたいが、近年、大都市のある都府県を中心に、生徒全員が企業就労を目指す、新しいタイプの養護学校（特別支援学校）が開校している。多様な職業に関する基礎的・基本的な教育を行うために、B校、C校のように、産業一般に関する学科を設置し、従来の養護学校の教育課程を見直し、産業社会の変化等に対応した教科「流通・サービス」が教育課程の中心的な科目として位置づけられている。

また、A校のように、既設の農業科、工業科の科目に教科「流通・サービス」を設置する学校や、E校のように、教育課程編成にあたって、生徒が自由に選択履修できるよう、「家政」の職業教育系列の中で介護の資格取得を目指すことができるようにしている学校もある。

一方、「盲学校、聾学校及び養護学校の高等部における職業教育等の在り方に関する調査研究協力者会議」の報告書（1996年）以降、教育課程の類型化を図り、普通科においても職業教育を行うことが進められているが、D校のように、普通科に流通・サービスコースや「流通・サービス」の分野を特定したコースを設置する場合も出てきている。さらに、現行の学習指導要領から、特色ある教育課程の編成のために学校設定教科を設けて、専門教育を主とする学科の各教科（家政、農業、工業、流通・サービス）に替えることができるようになったが、F校のように「流通・サービス」の分野を扱う学校などもあって、職業教育に関するメニューは大変多くなっている。

このように、教科「流通・サービス」を設ける学校は今後も増加するであろうが、第三次産業やサービス業への進路開拓を直截的に目指す学校や専門職の資格取得を目指す学校もあれば、社会人としてのコミュニケーション能力や対人スキルの向上を目標とする学校もあって、「流通・サービス」の目標の設定は学校ごとに異なることに注目しなければならない。生徒の実態と地域の事情を踏まえ、学校を設置する自治体の教育行政やコースを設置する当該学校の教育方針が反映される。生徒の具体的な進路先を視野に、教育課程や職業教育の中での流通・サービス分野の目標や位置づけについての基本的な考え方や方針が教員間において協議され、共通理解されることで、指導実践は始まるものとする。

## 2 教科「流通・サービス」の分野と学習活動

「流通・サービス」の分野は多種であるが、A校やD校のように、生徒が多く分野を学習体験している学校もあれば、C校、E校のように「清掃」や「介護」の分野を特化して取り組む学校もある。従来「流通・サービス」の内容（商品管理、販売、清掃、事務など）は、他の教科や領域・教科を合わせた指導の作業学習の中で、その学習内容に関連をもって取り上げられていたが、教科として取り上げることは、その分野について、広範囲の学習活動を深く、専門的に学習することになる。さらに、学習の発展や進路選択のためには、B校の販売士やE校のホームヘルパー資格取得などに向けた配慮が必要である。

特に、「清掃」や「介護」の分野は、メンテナンスやホームヘルプの業務として、内容の精選、統一が図られている。清掃活動の進め方は業界においてマニュアル化されているので、取り上げる学習活動の範囲や時間数に違いはあるが、多くの学校で実施されている。C校の「清掃」では、学習指導要領の解説で示されている、学習活動例のうち、すべての活動が実施されており、いわゆる本格的な清掃業務が指導されている。ただし、介護のホームヘルパーの資格に関しては、実技や実習のための施設や設備、指導者の資格（高等学校「福祉」免許所有、教職前に介護等実務経験のある教員）が前提となり制約もある。

A校やD校で実施されている「商品管理」や「事務」の分野は、学習指導要領の解説で示されている、学習活動例のうち、すべての活動が実施されているまでには至っていない。「倉庫における保管に関すること」「運送に関すること」などは学校の施設、設備だけでは実施できない。このため、施設、設備の充実を図ることや、産業現場での実習において学習活動の機会を得ることが必要である。一方で、各学校では独自の内容が工夫されて実施されていることも報告されている。「商品管理」「事務」「印刷」などの分野については、生徒の実態に応じた学習活動の精選や開拓は今後の取り組むべき課題であろう。

### 3 分野の選択・選定にあたり考慮すべきことの充足の程度

学習指導要領の解説には、各学校が「流通・サービス」の分野の選択にあたり考慮すべきことが5点、挙げられている。<sup>4)</sup> 当該の分野を選択し、実施していく上での必要条件となるもので、指導の過程においても随時、充足の程度を確認する必要がある。「流通・サービス」を教科として継続的、発展的に実施する際には、特に考慮がされなければならないが、教科としての指導実践の蓄積が充足の程度を高めるものとも考えられる。

各校の、5つの考慮すべきことについての充足度はほとんどが5段階評定の3（ふつう）以上であって、充足度はかなり高いが、学校間による差は大きい。B校はすべての項目が5（ほとんど満たしている）の評定であるが、開校2年目のD校はすべて3（ふつう）であって、充足度を上げることは今後の重要課題である。

考慮すべきことの中では「生徒に合わせて作業工程の工夫がしやすいもの」についての充足度が比較的に高い。「流通・サービス」の指導では、実習の時間を十分に確保し、生徒一人ひとりの到達の実態や状況等を十分考慮し、生徒個々にあった計画を立てることが求められるが、個別の実態に対応できていることがうかがえる。他方、E校の「介護」についての「一般社会で通用する商品の取扱いやサービス業務が行えるもの」は2（あまり充たされていない）の段階で、3級ホームヘルパーの資格が取得できても介護現場で通用するためには不十分であるとの受け止め方がされている。

### 4 指導計画の作成

「流通・サービス」を教科として行い、3年間の継続的、発展的な指導を進めるのには、指導段階別に指導目標を設定し、指導目標に応じた教科内容（精選された作業課題）が掲示され、その配列（内容の組織化と系列化）、標準的な時間配当等を示した指導計画（基本カリキュラム）が必要である。

本稿で紹介した学校は、「流通・サービス」のいずれかの分野を教科として実施しており、指導計画を掲げている。たとえば「清掃」の分野は、基本的な清掃用具の扱い、作業の手順、内容については、ビルメンテナンス業界では全国的に統一されたものがあり、C校などでは、業界のマニュアル（指導教本、ビデオ）をテキストにしたり、それらをものに教師自作のプリント（イラスト入り）等を作成している学校もある。<sup>1)</sup> またE校の行う「介護」の分野でもホームヘルパー3級課程のカリキュラム（教科とその指導内容）を週2単位時間、1年間で履修できる「ホームヘルプ実習」を実施している。

各校は「商品管理」「販売」「事務」「印刷」「喫茶サービス」についても、指導者自身の実際の職場体験から職務分析を行い、各種資格取得のプログラムや職業リハビリテーション研究機関の職業訓練・指導実践報告を参考に、指導計画を作成している。<sup>1) 8)</sup> 生徒の実態と学習過程でのつまづきへの対応に基づき、指導計画の改訂を進めることになる。学習内容の質的検証や、その順序性、理解獲得のために必要な学習量についての吟味が必要である。

### 5 産業現場等における実習（現場実習）

現行の盲学校、聾学校及び養護学校高等部学習指導要領は教育課程編成の一般方針のなかで、就業体験学習を強調している。<sup>3)</sup> 紹介した6つの学校は「流通・サービス」の分野を主とする実習先が「なんとかある」の状況である。この状況は「実習（仕事）内容が生徒の実態と合わないことが多い」という各校からの問題の指摘につながる。また、「流通・サービス」の特性から、実習先は「実習（仕事）内容が多様で、生徒が対応できにくいことが多い」「生徒自身ができればえを評価しにくい」という指摘も複数の学校からあった。就業体験で成果を上げるのは、実習先の開拓が喫緊の課題であるが、これまで

の製造業種中心の実習とは根本的に異なる課題のあることを理解しなければならない。

実習を進める上では、生徒の側の問題点や課題である「対人関係や接客にかかわることで、生徒には困難なことが多い」「そのつどの判断を求められること多く、生徒には困難なことが多い」といった指摘が少なくない。高齢者施設に就職している知的障害者のゆっくりした作業ペースや雰囲気が、高齢者の生活ペースに合っていて、好評で受け入れられているということは事実であるが<sup>2)</sup>、生徒の実習段階では養護学校の教師は、改善を必要とする点として見ていることも多い。接客を中心とするサービス業務は、コミュニケーション能力やソーシャルスキルが不十分であったりすることなどに関係して、生徒のストレスやつまずきをどのように克服していくのか、指導や支援の課題は大きい。

## 6 企業や地域等との連携の状況

近年、特別支援学校（知的障害養護学校）の職業教育や作業学習は企業や地域、関係の機関との連携を深めながら進められている。「流通・サービス」に関連しては、「学校での学習活動（授業）で、一般企業（清掃会社など）のマニュアルを利用している」、「学校での学習活動（授業）のために、企業や地域等に外部講師を依頼（招聘）している」、「近隣の幼稚園、学校、福祉施設、公園などで（清掃活動、介護などの）実習をしている」、「地域や福祉施設などの開催するバザー等によく参加する」といった日々の授業の展開にかかわって、地域の社会資源や人材を活用している学校が多い。働く活動とおしでの多くの人々との交流が、生徒のコミュニケーション能力やソーシャルスキルを高める有効な学習活動になっている。

現在のところ、取り組みが少ないのが、「近隣の商業高校や工業高校からの技術面のノウ・ハウ（知識・情報）の伝授」と「就労支援のための関係機関による地域ネットワーク形成」である。全国の職業学科を設置する学校は、広い範囲を学区としてしているため、進路開拓を進めるにあたって、学校のある地域に根ざす取り組みは容易ではない。また、信頼関係を築くのには長い年月が必要である。この結果、進路開拓、現場実習の指導、卒業後のアフターケアに困難が生じている。地道な取り組みが必要であるとともに、居住地域の特別支援学校同士、すなわち学校相互の連携、協力も検討されなければならない。

## VI. 課題と今後の方向

教科「流通・サービス」を進めるための課題や今後の方向について、いくつかを以下に挙げる。

- ・ 分野ごとの学習活動の充実と精選を図り、目標設定に応じた年間指導計画の上書きを図る。
- ・ サービス業や対人関係業務（接客）についての生徒の適性を見極めるとともに、自閉症を併せ持つ生徒、ソーシャルスキルが十分でない生徒などへの指導法の開発が求められる。
- ・ 指導者（教員）の専門的知識・技術の習得の向上を目指す。工業高、商業高の連携や教員交流を積極的に進める必要がある。
- ・ 就労支援のための関係機関による地域ネットワークの形成は急務の課題である。
- ・ 生徒が働く喜びを実感できる作業種目（分野）の開発、作業内容・方法の工夫等が重要なポイントになる。<sup>6)</sup> このためには、生徒による作業活動についての満足度調査等により、その意見や声を参考にすることも必要である。
- ・ 「流通・サービス」を通じて社会への認識を広げ、自己理解や自己有用感を築くことが大切である。このため、進路を自己選択、自己決定していくための進路学習のあり方を検討する。

## 謝辞

本研究を進めるにあたり、ご協力をいただいた特別支援学校（養護学校）の先生方に深謝いたします。

## 参考資料

- 1) 独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構 障害者職業総合センター トータルパッケージの活用のために 2007
- 2) 松矢勝宏 夢のある進路の選択と支援 発達の遅れと教育No.568 2004 pp.4-7
- 3) 文部科学省 盲学校、聾学校及び養護学校教育要領・学習指導要領 国立印刷局 1999
- 4) 文部科学省 盲学校、聾学校及び養護学校教育要領・学習指導要領（平成11年3月）解説—各教科、道徳及び特別活動編— 東洋館出版社 2000 pp.603-608
- 5) 森脇勤 企業と共に人材を育てる新たな進路指導システムをめざして—デュアルシステムの取り組み— 特別支援教育研究No.591 2006 pp.18-21
- 6) 中西郁 今後の就労支援で求められるもの 特別支援教育研究No.591 2006 pp.2-5
- 7) 日本知的障害福祉連盟編 発達障害白書—2007年版— 日本文化科学社 2006 p.181
- 8) 日本障害者雇用促進協会職業リハビリテーション部 知的障害者の職業訓練・指導実践報告（Ⅱ）流通サービス職種編 2000
- 9) 大久保哲夫 学習指導要領をのりこえる 船橋秀彦・森下芳郎・渡部昭男編 障害児の青年期教育入門 2000 pp.223-238
- 10) 小塩允護 これまでの・これからの高等部教育—職業学科の果たしてきた役割と成果 発達の遅れと教育No.559 2004 pp.4-6
- 11) 渡辺明広 知的障害養護学校高等部の作業学習等における作業種「清掃」—教材の構成と授業設計— 静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）第57号 2007 pp.185-198

この他に、訪問した学校の学校要覧、年間指導計画表、各種の実践報告書、研究刊行物等を参照しているが、紙数の都合上、割愛した。

\* 本研究は、平成19年度科学研究費補助金（基盤研究（C））（課題番号19530865）の助成を受けて行っているものである。